

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

おしゃれなフランス語、かわいい中国語
フランス語中国語合同自己紹介発表会

桐朋女子高等学校非常勤講師（中国語） 若森幸子
桐朋女子高等学校非常勤講師（フランス語） 小森谷朋子

0. はじめに（若森）

本年度は嬉しいことに中国語の講座が開講され 2 年生 6 人 3 年生 7 人計 13 人の生徒が集まった。最初の単元として、「自己紹介のスピーチをする」を行うことにして、思いついてフランス語と一緒にやることを小森谷先生に提案してみた。小森谷先生も賛成してくださり、6 月 28 日に同じ教室に集まり合同の自己紹介発表会を行った。

当初、私たちとしては生徒たちのちょっとした異文化体験というくらいの考えだった。しかし、意外にも私たちの期待以上のものを生徒は感じ、受けとってくれた。提出された生徒のレポートは私たちだけで読むにはもったいないほど内容のあるものだった。ここに報告としてまとめる。

1. 授業の概要（若森）

科目名：中国語 I 及びフランス語 I

単元名：クラスメートの前で自己紹介のスピーチをしよう

単元の目標：

- 1 自分のこと～名前、国籍、年齢、身分、誕生日、好きなこと、家族、住んでいる所など～を学習言語で言うことができる
- 2 スピーチの原稿を書き、暗誦しクラスメートの前で発表することができる
- 3 他言語のスピーチを聞き、自分の学習言語と比較し、違いやその言語の特徴を感じることができる

学年と人数：

中国語——2 年生 6 人、3 年生 7 人、合計 13 人

フランス語—2 年生 10 人、3 年生 9 人、合計 19 人

実施時期：2013 年 4 月 12 日から 6 月 28 日まで

総時間数：22 時間

履修単位数：1 年目、週 1 回、2 単位

使用教科書：中国語—『話してみたい中国語スピーキング倶楽部』朝日出版社

フランス語—『Parlons français, 話してみようフランス語』

2. 中国語の授業の経過とスピーチの課題（若森）

第 1 回—4 月 12 日— 教師生徒の自己紹介、中国語について、授業についてオリエンテーション

第 2 回—4 月 19 日—有気音無気音の発音、母音の発音、挨拶の言い方を学習

第 3 回—4 月 26 日—そり舌の発音、辞書の紹介と調べ方を学習、図書室に行き自分の名前の中国語表記と発音を調べた

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

- 第 4 回—5 月 10 日—子音 21 の発音を学習、教科書第 1 課を読む、挨拶を使ったスキットの発表会
- 第 5 回—5 月 17 日—名前を聞いたり答えたりする練習、第 1 課を解釈
- 第 6 回—5 月 24 日—数の言い方、日にち、誕生日の言い方、国名と国籍の言い方を学習、
- 第 7 回—5 月 31 日—教科書音読、家族の言い方を学習、自己紹介でなにを言うか考える
- 第 8 回—6 月 7 日—教科書暗誦の試験、趣味や部活動の言い方を学習、自己紹介原稿を書く
- 第 9 回—6 月 14 日—原稿を完成させ、2 人組で練習
- 第 10 回—6 月 21 日—教科書の筆記試験、自己紹介の練習

スピーチは、①自分の名前、国籍、高校〇年生、誕生日を入れること、②自分の好きなことを 2 つ入れること、③それ以外の内容が言えたら加点する、③発表は暗誦することを課題として出した。

3. フランス語の授業の経過とスピーチの課題（小森谷）

- 第 1 回—4 月 12 日講師自己紹介。発音の規則。挨拶を学ぶ。
- 第 2 回—4 月 19 日 alphabet の発音。名前の表現、国籍を音読しながら、男性名詞、女性名詞を学習。
- 第 3 回—4 月 26 日—挨拶、国籍、名前をペアになって質問し合う。être 動詞を学ぶ。
- 第 4 回—5 月 10 日—身近な物をフランス語で何と言うか聴きあう。冠詞を学ぶ。
- 第 5 回—5 月 17 日—食物、文房具などの絵カードで単語練習。疑問文、否定文を avoir 動詞で学ぶ。
- 第 6 回—5 月 24 日—今まで学んだフランス語がどの位聞き取れるか、フランス映画『Mon meilleur ami』鑑賞
- 第 7 回—5 月 31 日—映画の中の聞き取れた表現の確認。簡単な会話をみんなで考える。
- 第 8 回—6 月 7 日—自己紹介で表現したい事（クラブ活動、趣味、好きな食べ物、家族）を仏作文。
- 第 9 回—6 月 14 日—自己紹介の練習。前に出て発表する。空想家族も容認。
- 第 10 回—6 月 21 日—教科書の復習。自己紹介の練習。

スピーチは ①自分の名前、国籍、年齢、高校生、住んでいるところ。②家族の紹介。③クラブ活動、好きな食べ物の物等。①、②の暗誦は必修、③は余裕があれば加えるが課題です。

4 発表会の様子（若森）

6 月 28 日は、フランス語で使っている教室に両クラスが集まった。スピーチの内容が分からないと聞いても楽しくないので、発表は 2 人又は 3 人組になりひとは通訳として日本語訳をつけることにした。発表の順番はくじ引きできめ、フランス語と中国語を出来るだけ交互に組んだ。

最初の発表はフランス語履修生だった。大変上手なスピーチで、発音もよく美しいフランス語で、私は驚いた。生徒たちも静まり返って聞いていた。暗誦もできていて立派だった。中国語履修生の課題も暗誦ではあったが、完成度は低くて残念だった。

フランス語の最後の発表者は、くじ引きでたまたま最後になったのだが、「空想の家族」の発表だった。聞いている生徒たちも私も、最初は変わった家族構成にびっくりし、中間ではあまりにもとっぴな話に疑念を持ち、最後は「これは空想のお話です」と言われて、教室は笑いと拍手に包まれた。

発表が終わってから質問の時間をとった。互いに学んでいない言語に対して質問があるだろうと予想さ

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

れたので、あらかじめ分けたレポート用紙に質問事項を書いてもらっていた。

フランス語履修生からは、名前がどうして違うのだろうか、自分の名前はどのようなのか、家族の言い方を知りたい、中国語の数の言い方を知りたい、家族の言い方を知りたい、などの質問が出た。中国語履修生からは、100 や 1000 はどのようなのか、誕生日の言い方を知りたい、フランスパンは何と言うのか、フランス語で名前を言うときの言い方を知りたい、男性の名詞と女性の名詞にはどんなものがあるのか、などの質問があった。活発な質問が出たが、すべての質問に答える時間はなかった。授業が終わってからも、私たちは生徒に囲まれ質問攻めにあった。

中国語教師としてはこんなにたくさん生徒が、中国語に興味を持ってくれたかと嬉しかった。

5. レポートからみた生徒の反応（若森、小森谷）

発表の前にレポート用紙を配布し、発表をききながら、また聞いた後にレポートを書かせた。レポートの設問は次のようにしてみた。

<p>自己紹介スピーチレポート</p> <p>1①自己紹介スピーチをしてみてどうでしたか、 ②あなたのスピーチを自己評価してください。</p> <p>2 今回初めて、フランス語・中国語クラスの合同でおこないました。</p> <p>① 合同で行ったことについてどうでしたか。 ② 自分が学習していない言語のスピーチを聞いてどう思いましたか。</p> <p>3 学習していない言語について質問があったら、記入してください。</p>

このレポートを、私たちはとても楽しく、また嬉しく、やってよかったという充実感を持って読むことができた。ここから生徒たちの記述と一緒に読んでいただきたい。

まず、設問 1 について見る。

ここでは、スピーチをして緊張した様子が綴られている。¹

- ・フランス語で初めて自己紹介をしたので、とても緊張しました。(フ3年、ほか多数)²
- ・とても緊張してうまく言えませんでした。(フ3)
- ・すごく緊張しました。ものすごく緊張しました。(フ2)
- ・前に立つと暗記したことを忘れてしまった(中3)
- ・他のクラスの人にも発表するのは緊張しました(中2)

緊張を経験することも意味のあることであろう。外国語を話すということは、どんな場面でもそれなりの緊張がともなうことだからである。

反省も述べられている。

¹ レポートの引用は、生徒が書いたままを載せる。

² () 内のフはフランス語履修生、中は中国語履修生、数字は学年を表す。

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

- ・発音がよくなかった。いっばいつつかえてしまった。(フ3)
- ・もう少し紙を見ずに話せばよかった。(フ3)
- ・覚えていたはずの原稿が緊張からか毎回1文終わるごとに忘れてしまった。(中3)
- ・本当は“映画が好きです”と言おうと思っていたのに忘れてしまっていたのでくやしかったです。発音とかいろいろできていない所はたくさんあったけれど楽しくできました。(フ2)

また、達成感も述べられている。

- ・恥ずかしかった、でも楽しかった、ちゃんと覚えて言えた！(フ3)
- ・きちんと憶えて前を見ながら話せたので、練習の成果がでてよかったです。(フ)
- ・一度も原稿を見ずに言うことができました！(中3)

授業で生徒に一定の達成感を得させるというのは、とても大事なことだと考える。しかし、文型を学習し、単語を入れ替えてパターンプラクティスをしただけでは達成感は味わえない。今回の取り組み、スピーチをクラスメートの前でするという事は、達成感の得られる活動だったといえる。

達成感とは、「もっと」という意欲へつながっていく。

- ・発音が難しかったけど、楽しかったです。もっと発音がうまくなりたいと思いました。(中2)
- ・もっと色々なことが言えるようになりたいと思いました。(中2)
- ・発音がもっときれいになりたいなあと思いました。(フ3)
- ・自分のことがもっと話せるように、単語や文法をもっと勉強しようと思いました。(フ3)
- ・緊張しましたが、きちんと言えたので嬉しかったです。もっと極めたくまりました。(フ3)

つぎに設問2について見ていく。多くの生徒にとって、自分が学習していない言語を生で聞くのは、このときが初めての経験だった。しかもクラスメートが、いつもと違う言語を話すというのは、ちょっと特別な感覚がありそうだ。次の感想は、なにか言語と人格の関係を示唆しているような気もする。

- ・普段日本語を話している人が中国語を話している姿を見て、とても不思議な感じがした。(フ3)

人がいつもと違う言語で話すとき、違う人のように感じたことはないだろうか。日本語で話しているときは優しい感じの人だったのに、英語で話し始めるとはきはきした感じになるというようなことである。言語というのは、人格のある一定の部分を占めるのではないかと、私は思っている。その点で、普段日本語を話しているクラスメートの、中国語を話している姿を見ての不思議な感じがするという事に、私はとても共感する。

発表会を合同で行ったことについては、生徒たちは肯定的に評価してくれていた。

- ・中国語で自己紹介をしている友達を見るのは、とても新鮮で楽しかったです。(フ3)
- ・異文化を感じられておもしろかった。(フ3)
- ・中国語を聞いたことがなかったので新鮮でした。(フ3ほか)
- ・全く分からないから新鮮でした。楽しかったし、興味深かった。(フ2)
- ・楽しかった(フ3ほか)
- ・初めて中国語をじっくり聞けたので、おもしろかった。(フ3)

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

- ・いつも聞かないフランス語を聞くことができ良かったです。まるで違う国にきたみたいでした。(中 2)
- ・普段聞く機会が少ない中国語を身近に聞いて楽しかった。
- ・初めて習う外国語を頑張っている人がほかにもいるのを見て、とても刺激をうけました。(中 2)

学習していない言語についての感想はどうだっただろうか。

中国語については、次のような感想や発見があった。

- ・中国語の発音はとても独特でおもしろかった。(フ 2)
- ・同じ自己紹介をしているのに全く違くて聞こえるのがおもしろかったです。(フ 2)
- ・中国語はさ行、しゃ行が多いなあと思った。(フ 3)

また、スピーチの中で家族の名称(パパ、ママ、メイメイなど)が何回か出てきたので、これを聞いて、中国語はかわいいという感想が多数あった。意外であった。

- ・発音が面白いなと思いました。特にママ、パパとは家族の紹介の発音が可愛かった。(フ 3)
- ・パパ、ママなどかわいい言語があつて面白いなと思いました。(フ 3)
- ・中国語は難しそうで、発音が可愛かった。(フ 3)

一方フランス語についてはおしゃれ、かっこいい、難しそうという感想だった。

- ・新鮮でした。オシャレな雰囲気がありました。(中 3)
- ・響きがきれいだなと思いました。話すことができたらかっこいいなと感じました(中 2)
- ・発音がすごく難しそうでした。(中 2)
- ・発音が難しそうでかっこよかったです。(中 2)

中国語は声調のある言語なのだが、そこに気が付いた発言もある。

- ・発音の高低とか、強弱がすごく中国語ぽかった。(フ 2)
- ・中国語は話すときに音の高さが高くなったり低くなったりするのが特徴的だと思った。(フ 3)

固有名詞については、フランス語や英語では元の音に近く発音される。これに対し中国語では漢字を中国音で読むため、日本語とは違う発音になる。このことに気がついたので感想がある。

- ・みんなの自己紹介を聞いて、日本の名前と中国語の時の名前が違うのだなとおもいました。どうして違うのだろうと思いました。(フ 3)
- ・名前とか、固有名詞の発音が全く変わるので難しいと思った。(フ)

フランス語についても逆の驚きがみられる。

- ・名前が日本語の発音のままなのも驚きました。(中 2)

中国語の授業では、名前の読み方が違ってしまふことを取り上げるが、今回はそれを実際に聞いて、生徒たちはフランス語と中国語の違いに自ら気付くことができた。

私たち教師にとって嬉しかったのは、学んでいない言語について生徒たちが興味を持ってくれたことだ。合同でやったからこそその感想が見られる。

- ・中国語をきちんと聞いた事がなかったので、とても興味がわきました。(フ 3)
- ・中国語をもっと聞いてみたいと思った。(フ 2)

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

- ・習ってみたいと思った。(フ2)
- ・フランス語に対してこれは何というんだろう？とか色々知りたいことが増えた。
- ・フランス語も学びたいと思った。(中3)
- ・フランス語も面白そうだと感じました。(中3)

今後どんどん興味を広げて、3 つ目の外国語に挑戦し、世界を広げて行ってほしい。私たちの願いである。そして、ただ興味だけでなく、学習していない言語についても聞いているうちにだんだんわかっていくということを、生徒たちは言っている。若さからの耳の良さ、言語感覚の良さが見て取れる。

・何組も聞いているうちに、フレーズなどが少しだけわかっていくのも、おもしろかった。(フ3)

・数字、家族、難しい発音、なんとなく覚えられた。(フ3)

・これはこうかな？というのがあった。“私は～”とか。(フ2)

・名前の言い方や住んでいる所を言う言い方など繰り返し出てきた表現をおぼえることができました。(中2)

・多くの人が回を重ねるごとになんとなく何を言っているのかわかるようになった。(中3)

・「ジュスイー」などよく使うものは中国語の「我是」と似た意味なのかなと思いました！(中3)

まったく素晴らしい言語習得能力である。

意味を持たなかった音声も、意味を持って聞こえてくるようになるという素晴らしい体験をこの時間に生徒たちに与えることができた。私たちの喜びは大きい。「教えられたことは忘れるが、自分でつかみ取ったことは忘れない」ということを思うとき、自分が前に立って教えるよりも多くのことを、生徒たちが学んだのではないかとさえ思う。

生徒たちはまた、他言語履修生徒を学習仲間としてとらえている。最後に、この仲間への共感と賞賛の言葉を見てみよう。

・中国語もフランス語も発音がとても難しく、きっと同じように苦戦しているのだなと思いました。(中2)

・訳を聞かないと全く何を言っているのかわかりませんでした。本当によろしいなと思いました。(フ2)

・名前とか、固有名詞の発音が全く変わるので難しいと思った。みんなちゃんと発音出来ていてすごい。(フ)

・みんなすらすらと言っていて凄いなと思いました。(中3)

ここまで、生徒たちのレポートを読んでいただいた。

6. 成果と反省、今後に向けて

フランス語から (小森谷)

若森先生の提案で実現した中国語、フランス語の合同授業でしたが、単科で正味 90 分では成し得ない充実した内容になりました。

私自身、中国語履修の生徒達が、4 月からたった 10 回の授業で流暢な中国語で堂々と自己紹介している

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

のに大多数の生徒同様、大感激で、学んでみたくなりました。

フランス語は地名など固有名詞はローマ字表記で意味は解るので、発音の規則さえ理解してしまえば、自然に導入していけるが、全く異なる音とリズムの中国語を、初心者にとどの様に導いていращやるのか、是非若森先生にご講義頂きたい。(ご自身は生徒達の発音にご不満の様でしたが、私には中国帰国子女の様に聞こえました。)

フランス語は文法と発音が密接にかかわり合っている言語なので、短時間で効率よく理解させようと思うとどうしても、先ずは文法ありきになりがちだが、今回の合同授業で、発音重視の中国語に接し、導入のアプローチを再考察し、授業に反映したいと思います。

自分の世界が広がる-- 今まで聞こえなかった音が、耳に留まり、全く気付かなかった言語に目を奪われ、理解できる--。新たな語学会得への最初の大きなモチベーションです。

違う言語を学ぶ同級生の発表を聞く今回の体験は、異文化を身近に接し、生徒各自の世界拡大に大きく寄与出来たと思う。

合同はスピーチ発表授業、是非来年度も行いたいと思います。

中国語から (若森)

外国語学習の成果を、「わかる」から「できる」へ、さらに「つながる」へと広げていくことを考えると、今回の活動は、簡単なもの一同じ教室に集まるだけだったにもかかわらず予想外の交流ができ、中国語履修生とフランス語履修生が「つながる」ことができたよい活動だったと思う。単科内での発表の場合は、自分の成果を発表し達成感は得られるだろう。しかし、そこにフランス語履修生—違う言語ではあるが、やはり英語以外の外国語を学んでいる仲間—がいることで、発表の態度も聞くときの興味も大きく違ってきた。他言語を聞くことで、外国にいるような感じを味わい、比較することで興味や意欲が生まれ、賞賛の気持ちも生まれた。学校内の異文化交流として大きな成果があったと考える。

実を言うと、スピーチの練習時間が少なく、フランス語の生徒や先生は感心してくれてはいたが、生徒たちの発音はよくなかった。準備中にスピーチの内容を増やすことばかり考えたことを自分で深く反省している。もっと生徒一人ひとりの発音に時間をかけるべきだった。

当日は、英語科の桜井先生が聞きに来てくださり、生徒たちはお褒めの言葉をいただいた。ありがとうございました。

来年度もこのスピーチ発表会を合同で行うことができるようにと願っている。

『桐朋学園女子部研究紀要第 29 号』に掲載された実践報告を、許可を得て転載しました。

英文題名

“Fancy French and Cute Chinese”

—A joint presentation of self-introductions from the French and Chinese classes—